

水戸八景 (徳川景山)

雪時 嘗て 賞す 仙湖の 景

雨の 夜 更に 遊ぶ 青柳の 頭

山寺の 晩鐘 幽壑に 響き

太田の 落雁 芳洲を 渡る

花光 爛漫たり 岩船の 夕

月色 玲瓏たり 広浦の 秋

遙かに 望む 村松 青嵐の 後

水門の 帰帆 高樓に 映ず

雪時嘗賞仙湖景 雨夜更遊青柳頭
山寺晩鐘響幽壑 太田落雁渡芳洲
花光爛漫岩船夕 月色玲瓏廣浦秋
遙望村松青嵐後 水門歸帆映高樓

解説 徳川斉昭の潔でも特に名高い絶景地八か所を選び、それを「水戸八景」としてた
たえたもの。

語釈 ※嘗Ⅱかつて、以前。昔。※賞Ⅱめでる。※晩鐘Ⅱ夕暮の鐘の音。※幽壑Ⅱ奥深
い谷。※落雁Ⅱ空より舞い降りる雁。※玲瓏Ⅱ麗わしく輝くさま。※帰帆Ⅱ港に帰る舟。
※高樓Ⅱ二階だて以上の高い建物。

通釈 雪の降る時、千波湖の勝景を讚美した事もあるし、更には雨の降る夜に青柳のあ
たりを遊歩し、格別な気分浸つた事もある。山寺の晩鐘は静かな谷間に響き渡り、太
田の辺りに舞い降りる雁は花咲匂う中洲を渡る。いずれも美しい光景である。岩船あ
たりの夕べは花の香に満ち、秋の広浦の月は美しく輝いている。また、緑松の林を吹き
過ぎる風のを遠くに望む様も、一服の涼を感じて素晴らしく、帰り来る帆掛船は高
殿に映えて美しい。みな、わが水戸のよき眺めである。